

## L2ライティングにおける日本語非母語話者のビリーフ

Beliefs of non-native speakers of Japanese on L2 writing

長谷川 哲子 (HASEGAWA Noriko)

本研究は、日本語学習者が第二言語としての日本語ライティングに対してどのようなビリーフを持っているかを調査するための基礎的な研究である。

従来、日本語教育におけるビリーフ研究では、以下のような観点からの研究が多かった。具体的には、日本語の指導に従事する教員側の持つビリーフ(いわゆる教師ビリーフ)、もしくは日本語の指導を受ける学習者側の持つビリーフ(いわゆる学習者ビリーフ)を研究するビリーフ研究が挙げられる。これらのビリーフ研究については、特定の国や地域を対象とした研究も散見される。本研究をふまえて最終的な目的とするのは、ライティングという特定のスキルに着目したビリーフである。先述した先行研究におけるビリーフ研究では、BALLI(the Beliefs About Language Learning Inventory : Horwitz(1985,1987)) を利用した調査が多く見られるが、本研究では最終的な本調査では、ライティングにおけるビリーフを適切に解明するために、BALLIをもとに独自の調査項目をたてることとする。本研究では、こうした独自の調査項目を策定するため、また、ライティングにおけるビリーフ研究の端緒として、いくつかの調査を行った。パイロット調査として、非母語話者である留学生がどのように非母語話者作文を評価するかという観点から、予備的な調査を行った。その結果、留学生と大学教員の注目点の異なりについての傾向差があることを指摘した。このことは、これからのアカデミックライティング指導において、どのように評価されるか、という読み手を意識したライティングへの意識を喚起することの必要性を示唆している。今後は、このような調査結果をもとにし、さらに本調査項目策定のための調査、研究を継続していく予定である。